

今日の説教のポイント<創世記 27 章 46 節～28 章 9 節>

問題に思われるリベカの発言。聖書の読み方をそこから考える。

①リベカは人種差別をしている？

リベカが兄ラバンの所にヤコブを逃がそうとした次第が記されていますが、リベカの他の民族に対する排他的な言動が気になります。「わたしは、ヘト人の娘たちのことで、生きているのが嫌になりました」(27:46。26:35 にその理由)。イサクもエサウもこの意見に同意しません。聖書は人種差別的な思想を肯定しているのでしょうか？

②聖書をまとめた人たちが聞き取ったこと — 神への信頼の貫き！

この話を最終的に今の形の文書にまとめたのは、紀元前 5 世紀にイスラエルが滅ぼされてバビロンに連れて行かれた人たちが、その後イスラエルに帰還が許された人たちです。前者の場合はイスラエル人がバビロンに同化しかねない状況であり、後者の場合は周囲の民の攻撃の中で協力して国を再建しなければならない状況でした。彼らは明らかにここから、人種差別的な思想ではなく、他のものに惹かれず神への信頼に堅く立って生き抜くという教えを聞きとっています。

③聖書の読み方 — 三つの層があることを意識して読むこと

聖書の話を読むときには、1) その出来事が起こった時に持った意味、2) その話を最後に文書に編集した人たちが聞き取った意味、そして 3) 今それを読む私たちが考えさせられる意味、以上の 3 つの意味を考えることが必要です。それぞれの人々が直面していた状況の中で神様から何を示されたかを考え、最後に今の私たちが直面している問題に対して神様が語りかけておられることを考えることが大切です。

④今直面している問題の中で、信仰者らしく考える！

今日は特に全ての人が 70 年前に起こした戦争を思い返し、世界の平和のために祈る時です。私たちは今聖書から、アブラハムからイエスキリストまで続く、神様が全ての民を招いて下さる「祝福」の契約について学んでいます。それは人種差別とは逆の、どんな民族のどんな人も、罪赦されたことを感謝して受け入れる人は「神の家族」に招かれていることを教えています。信仰者は、平和についても、このことを土台としながら祈り、考え、取り組んで行くことが託されている者たちです！